令和８年度　小櫃･上総地区公民館運営審議会　第２回会議次第

日時：令和８年９月８日（火）午後２時３０分から
会場：上総公民館　多目的ホール

１　開会

２　公民館長あいさつ

３　議題
（１）公民館の使用料金について

（２）令和８年度事業中間報告（４月～８月）について

（３）地域住民が主体の「地域づくり」を推進する公民館活動について

４　その他

５　閉　会

資料1-1（差替）

【公民館運営審議会資料】　令和８年９月

公民館の使用料金について（検討状況）

生涯学習文化課

現時点で、公民館の使用料について以下のとおり検討をしており、引き続き審議会の皆様からのご意見も参考に、検討を進めてまいります。

１　各審議会の意見から

今年度、公民館運営審議会委員や社会教育委員の皆様から寄せられているご意見をまとめるとおおむね次のとおりです。（公民館運営審議会でのご意見の詳細は別紙のとおりです）

・光熱水費等を考えると、ある程度の使用者負担は理解、又はおおむね理解する。
・徴収に際しては、ねらいや負担の内容を明確にし、丁寧な説明を求める。
・他市の状況等を注視しながら適正な値段設定を。
・公共、準公共的団体の使用には減免があるべき。
・料金徴収の手間を考えると余計に費用がかかるのでは。手間などでサービス低下にならないことを求める。
・無料が良いとは思うが、現状を考えるとどうか。
・教育機関として現状維持が望ましい。できれば無料がよい。
・使用者減、高齢者の使用減などが懸念される。
・公共教育機関としての公民館の本来の意義、また現代の教育の動向に鑑みると慎重に検討すべきでは。

２　料金算定の考え方について

使用料金の算定について、現時点で以下の考え方を軸に検討しています。

・市内の公共施設や近隣の公民館使用料なども考慮し、利用者の過度な負担とならないよう金額を設定する。
・公民館８館の光熱水費相当額約 3,600 万円に公民館施設床面積の全体に対する貸出面積（全体で平均約 40%）の割合を乗じ、そこから各部屋の面積の割合をもとに使用料を算出する。

３　使用料減額・免除の考え方について

使用料の減額・免除（以下「減免」）のあり方について、現時点では次の考え方を例に素案を検討しています。

・公平性の観点から基本的にすべての使用団体に負担いただく。
・ただし、以下の使用については減免策を講じる必要があると考えている。
（減免割合は今後精査）

① 君津市・君津市教育委員会（以下「本市」）の公務として行われる使用
（例：市役所の会議、市立学校の教職員研修等）

② 国県市町村等の官公庁、公立学校等の申請による使用で、使用者に君津市民が対象に含まれるもの。または使用内容が君津市・君津市民に直接関連が深いもの。

③ 本市から委嘱・委託されて行う活動を実施するために使用する場合。
（例：青少年相談員活動の使用等）

資料1-2（差替）

公民館の使用料金について（第１回公運審意見）

生涯学習文化課

５月の公民館運営審議会では、公民館の使用料について下記の意見が出されました。

○５月２０日　君津地区公民館運営審議会

・現公民館の光熱水費が、こんなにかかっているのかっていうのも少し驚きました。私は前回から使用料の徴収について賛成派でしたけども、なおさらに賛成の気持ちが強くなりました。
・先ほどのお話を聞いていて、来年の 10 月から施行するような形で、もう無料ってないよね、と受け取りました。
・お金のやり取りって結構手間もかかるし、人件費もかかって、余計に費用がすごくかかるのではないかな。そのほうが大変じゃないかなと思いました。
・現状を維持し、公民館は教育機関というところの大切さや役割を果たしていただきたいと考えています。
・有料化っていうところに関しては、リスクはあるかもしれないんですが、丁寧な説明をする中で進めていただけたら私は良いなと思っています。
・できれば無料が良いとは思いますが、使用料については条例があるということだったので、それに則って取っていただけたら良いのではと感じました。
・説明を受けて、いろいろと考えさせられたので、今後、意見が変わるかもしれません。詳しいことは分かりませんが、利用者として基本無料が良いかとは思います。
・5 人で借りる時と 20 人で借りる時は負担感が全然違う。どのようにお金を決めるのかという不安もあるが、光熱水費の金額を見ると助けてあげたい危機感は感じる。
・市としてどういう狙いとか、コンセプトでいくかというところをしっかり打ち出すことが大切だと思うんです。
・必要だから残していきたいということを明確にし、説明すれば市民にご理解いただけるんじゃないかなと思っています。
・公民館で、これから使用料をいただくようになりますって、これだけが表に出ると市民が受けるイメージっていうのは、喪失感があると思うんですね。
・光熱水費が 3,500 万円あり、50%、25%を利用者に負担をお願いしたいんですっていう説明に持っていかないと、なかなか共感、理解は得られないのかなという感じはしています。
・徴収するのは反対しないけれども、徴収するための費用が余計かかってきてしまう。そのあたりについては、やはりしっかり制度設計が必要ではないか。

○５月１４日　小糸・清和地区公民館運営審議会

・節電、節水などの意識がなく、公民館を使い放題という意識があるような気がする。使用料を払うことで意識も変わっていくのでは。
・令和６年度の決算額を見てびっくりしました。みんなが集まる場所は必要なので、やっぱりある程度皆さんの負担は必要だと思います。
・他市の状況等も見ながら、適正な値段で設定していただければ、私はある程度やむを得ないかと思っています。
・趣旨を市民に十分に周知するようにご努力願いたい。
・学校や社会福祉協議会、婦人会等公共的団体または準公共的団体、組織については減免等も当然あるべきだと思います。
・徴収によって公民館の職員に過度な負担がいかないように、徴収方法等について知恵を出していただきたい。
・市の担当が責任を持って方向性を示し、それについて利用者等に説明していくことが必要。
・木更津の方が何人かいるんです。市民とはそこはきちんと変えて欲しい、差をつけるというか、そういうことが大事となります。
・有料化には賛成ですけれども、きちんと説明するということ、皆さんに話せばきっと分かってくれると思います。
・公民館利用だけが無料っていうのは、どうなのかなって誰でも疑問に思うんじゃなかと思います。
・事務が煩雑になる恐れがあり、細かい端数はどうなのかと感じている。
　また、現金で払うのがいいのか、何か他の方法があるのかということも気になる。
・互いに負担にならないような方法を検討していく必要がある。
・減免の問題が一番課題になるんじゃないかなと思うんですよね。減免の判断っていうのも一番難しいし、煩雑にもなるんじゃないかなと思うんですよね。

○５月２６日　小櫃・上総地区公民館運営審議会

・使用料金の徴収について、最終的には現場の人間に押し付けられてしまったりすると、現場の職員が担っていた業務に手が回らなくなってしまってサービスの低下につながってしまうのが一番困ると思います。
・高齢者の電子決済への対応についてですが、ほとんどの人ができないのではないかと思います。職員と高齢者の負担について、しっかり検討していただきたいです。
・現金での給付だと職員の負担が大きく、電子決済だと高齢の方がついていけないのでは、という課題がある。
・私のサークルでは、終日部屋を押さえて、参加者が各々自由に来て活動する形で実施しています。もし時間単位で使用料金が決まるのであれば、結果として参加を諦めざるを得ない人が出てきてしまうのはないかという懸念があります。
・一度使用料金を取る体制ができてしまうと、何年後かに使用料金が値上がりして、公民館を利用する人が減っていってしまうのではないかという懸念があります。

資料 2-1

令和８年度小櫃公民館事業中間報告（４～８月）

１　コミュニティ活性化事業

（１）第５２回小櫃地区文化祭：１０月３１日(土)、１１月１日(日)開催予定。

・７月１０日（木）第１回企画会議　前年度部門長・利用者連絡協議会役員を招集。第１回実行委員会にむけて、日程・開催要項・役員体制案の検討、課題および懸案事項洗い出し、特別企画について等の確認。

・８月　７日（金）第１回実行委員会　企画会議での決定を受け、開催要項・実行委員会役員の承認と今後のスケジュール、昨年度までとの変更点等を共有。全体会議後部門別会議（部門長選出）。

（２）利用者懇談会　前期：定期利用サークル、団体等へ参加呼びかけ。年２回。
前期は７月の、後期は１月の、ともに最終金曜日（今年度は１月３０日）に固定して開催。７月３１日（金）昼の部と夜の部を開催：参加者２５名。
１０月以降の利用（閉館時間変更、休館日新設等）について再度周知。
有料化の動きについて進捗状況も説明、感想・意見の吸い上げ。

（３）団体支援事業：公民館利用者連絡協議会、小櫃の元気なこどもを育てる会
小櫃地区社会福祉協議会、おびつあそんべ食堂実行委員会。

・６月　７日（日）小櫃の元気なこどもを育てる会総会　開催

・７月　４日（土）七夕長谷川ホタル谷フェスタ２０２６　開催

・９月２０日（日）小櫃地区ふるさと祭り　開催予定

※あそんべ食堂は毎月第４火曜日に開催。
４月２８日：９７名、５月２６日：１０６名、６月２３日：１０２名、
７月２８日：８７名、８月２５日：６５名。

（４）地域づくり協議会伴走支援事業：市民センター、地域づくり課とともに。

・４月２３日（木）第１４回準備会　←運営委員会←職員打ち合わせ

・５月２８日（木）第１５回準備会　←運営委員会←職員打ち合わせ

６月１１日（木）設立総会開催　「小櫃てらす」として会員２０名で発足

５名の共同代表体制（＝グループリーダー）。主たるプロジェクトとして、
①OIMO（おいも）プロジェクト：さつま芋の植え付けから収穫を体験
②たまごフェスタ：“小櫃のたまごを知って、食べてもらおう”
③教育プロジェクト：“コノハナ（この人に話を聞きたい)”の企画
④農業・食文化プロジェクト：第２弾「玉ねぎ講座」の企画
⑤インフラプロジェクト：地域医療に関するアンケート調査の実施
に取り組む

・７月　９日（木）小櫃てらす　第１回運営委員会（＝共同代表打ち合わせ）

・８月　４日（火）小櫃てらす　第２回運営委員会

・８月１０日（月）小櫃てらす　第１回全体会
・９月２９日（火）小櫃てらす　第２回全体会　開催予定
※全体イベントとして「OIMO （おいも）プロジェクト」を５月１６日（土）に実施。公民館はこれにあわせ、趣味教養講座としての主催事業「はじめてのさつまいも栽培講座」を５月８日（金）に開催し側面支援。
※９月２０日（日）開催の「小櫃地区ふるさと祭り」に“たまごフェスタ”のプロジェクトで参加予定。公民館はこれにあわせ、趣味教養講座としての主催事業「おびつのたまごをたのしむ教室」を２回開催し側面支援。
８月　９日（日）２種のたまごサンドづくり：参加者２０名、
８月２３日（日）シフォンケーキづくり：参加者１６名。

２　青少年教育事業

（１）子ども会等関係者会議：開催日を毎年５月の最終金曜日に固定。
・５月２９日（金）　各地区「こども会」の存続問題を受け、地区を超えてのこども向けイベントの企画検討を提案。参加者１６名。

（２）こどもひろば：昨年度統合した「おびつ地域ミニシアター」「おびつっ子チャレンジ」に、さらに、これまで「おびつな」の中で実施してきた“おびつ縁日”を統合。
①小櫃小学校学童クラブと連携「公民館でミニシアター」を７月２７日（月）開催：参加者５５名。８月２５日（火）開催：参加者３５名。
②“ニットカフェ”と連携「編み物でひまわりを作ろう」８月５日（水）開催：参加者８名。
③「夏休みゲーム大会」８月７日（金）開催：参加者１２名（中学生ボランティア３名含む※）。
④「たまごサンドを作ってみよう（←趣味教養講座「おびつのたまごをたのしむ教室」の１回目でこどものみの参加も可とした）」８月９日（日）開催：参加者２０名（大人の参加者含む）。
⑤「みんなおいでよ！　おびつ縁日」８月２２日（土）開催：参加者５２名。

（３）こどもキャンプ：第２２期青少年相談員と連携。
・７月　５日（日）　事前オリエンテーション
・７月１９日（土）～２０日（日）太海海水浴場で海水浴、「鴨川青少年自然の家」研修棟に宿泊。参加者１５名＋青少年相談員１４名（OB３名含む）。

３　課題解決学習推進事業

（１）「小櫃まるごと博物館」構想事業：小櫃振興会発行予定の“（仮）あるく小櫃マップ”編集作業とリンクしてのフィールドワークも実施。
また、久留里城址資料館とタイアップし、農民芸術（ギニョール）についてのミニ展示や講演会を実施し、関連事業として１１月２２日（日）に『小櫃学』を開催する予定。

・５月１１日（月）第１回運営会議
・６月１５日（月）第２回運営会議
・８月　３日（月）第３回運営会議
※昨年度末、旧木更津看護学院から君津市教育委員会へ、小櫃出身の彫刻家・安西順一作の彫刻像『つぼみ』の寄附があり、小櫃公民館ロビーで展示中。

（２）おびつスマイルサロン“いーね”：原則毎月第３金曜日に開催。７月１７日の回は高齢者学級「ほほえみ学級」と合同で実施し、ボッチャを体験した。

（３）介護家族のひろば　前期：上総地区にもチラシを回覧。６月と１１月の年２回開催。前期は６月１８日（木）に開催、参加者７名。

（４）小櫃地区防災講座：小櫃地区自治会連絡協議会との共催。毎年６月半ばの日曜日に固定開催。今年度は６月２１日（日）に開催、参加者５９名。
NPO 法人首都圏防災士連絡会副理事長の今井富雄氏を講師にお迎えし、避難所のトイレ問題を焦点にあてお話をいただいた。講座終了後には、市内の業者にご協力をいただき、防災グッズ（携帯トイレや非常食等）の展示を行い、使用方法など説明もしていただいた。

（５）高齢者学級「ほほえみ学級」：テーマを「自分を見つめる」とし、７～２月まで８回開催の予定。１２月には恒例となっている上総公民館・高齢者学級「さわやか学級」との交流会「太巻きずし作りで交流！」を実施する。

（６）趣味教養講座：「小櫃てらす」の側面支援を担う。
①「はじめてのさつまいも栽培講座」５月８日（金）開催：参加者２１名。
②「おびつのたまごをたのしむ教室」を２回開催し側面支援。
・８月　９日（日）２種のたまごサンドづくり→こどもひろば「たまごサンドを作ってみよう」としても開催。
こどもだけでの参加も可とした。参加者２０名。
・８月２３日（日）シフォンケーキづくり→大人を対象として、こどものみの参加は不可とした。ガスオーブンの台数（４台）に合わせ午前と午後の２回、４グループずつで開催。
参加者１６名。

資料 2-2

令和８年度上総公民館事業中間報告（４～８月）

１　コミュニティ活性化事業

（１）上総公民館だより

・６月１８日（木）　第１８８号の発行
　１面:令和８年度事業計画、令和に続く地域の力「久留里街路灯組合」
　２面:文化祭個人参加募集、サークル紹介、主催事業実施報告、上総で元気に暮らす　ほか

（２）上総地区文化祭

・４月３０日（木）企画会議（前年度役員会）
　第１回実行委員会の議案の確認ほか
・５月１９日（火）　第１回実行委員会
　基本方針及び日程の確認・役員選出・部門別会議ほか
・８月１８日（火）　第２回実行委員会
　第１回実行委員会報告、文化祭の主な行事・計画、共同作業（会場づくり）、当日の運営・後片付け・反省会、「実施報告書」の提出、子ども向け企画への協力ほか

２　青少年教育事業

（１）子どもデイキャンプ

・８月８日（土）
　会　場：上総公民館
　参加者：４２名（小学生３０名・青少年相談員９名・青少年ＯＢ３名）
　内　容：ジャンボプール・モルック大会・カレー作り（飯盒炊爨）・肝試し

（２）上総小櫃地区２０歳のつどい

・別途報告

３　課題解決学習推進事業

（１）高齢者学級（さわやか学級）

・６月１１日（木）開級式・オリエンテーションを行い、今年度の学級長など役員を決定。講座は「かしこい消費者になろう！悪質商法撃退法」を実施（参加者：２７名）
・７月８日（水）生涯学習バスを利用しての移動学習「千葉市立郷土博物館、ボタニカミュージアム（千葉市）」を実施（参加者：２３名）
・８月５日（水）講座「わたしと家族の「そうぞく」講座」を実施（参加者：２４名）

（２）上総子どもふれあい教室

・６月２７日（土）「開級式＆みんなであそぼう！」（台風の影響のため中止）

・７月２８日（火）移動学習「港区立みなと科学館・気象科学館」と「JICA 地球ひろば」を見学。港区立みなと科学館・気象科学館では身近な科学や気象、地震、火山等の防災知識について学ぶことができた。
JICA 地球ひろばでは、海外協力隊の体験談を通じて、外国の生活や文化、水を汲みに行く子ども達やストリートチルドレンなどの世界の抱える課題について学ぶことができた。
協力：主任児童委員
（参加者：子ども１９名、大人４名）

４　分館事業

（１）松丘分館事業

〇松丘分館だより

・６月１９日（木）第６６号（通巻１３３号）発行
１面　松丘分館事業アドバイザーあいさつ、令和８年度松丘分館事業計画、松丘分館移動研修　深大寺・JAXA 調布航空宇宙センター
２面　サークル紹介（松健ゆるヨガ）、松丘探検隊、松丘コミュニティセンター開館時間変更のお知らせ、分館だよりの配布方法変更等のお知らせ、サークル活動始めてみませんか、令和８年度松丘コミュニティ活動推進委員会の主な事業計画

〇夏休み茶道教室

・８月２日（日）裏千家　准教授　鎌田宗茂氏を講師に招き、上総小の児童及び上総小櫃中の生徒を対象に茶道の歴史や礼儀作法を学んだ。（参加者：９名）

〇松丘ふれあいまつり

・７月２３日（木）第１回実行委員会
基本方針及び日程の確認・役員選出ほか

（２）亀山分館事業

〇広報かめやま

・６月１９日（木）第２２号（通算１７０号）発行
１面：分館事業アドバイザーあいさつ、わが自治会とっておきの話　ほか
２面：分館移動研修報告、ほっとかめやま　ほか

〇亀山ふるさとまつり

・６月４日（水）事前打ち合わせ会議
第１回実行委員会の議案の確認ほか

・６月１１日（木）第１回実行委員会

基本方針及び日程の確認・役員選出・部門別会議ほか
・８月２０日（木）第２回実行委員会
全体計画の進捗状況、共同作業及び当日までの動き、当日の運営・分担について

５ 上総地域交流センター 市民相互交流促進･生涯学習促進事業
・６月２日（火）第１回花いっぱい運動
君津青葉高等学校とまちなみ塾と一緒に上総地域交流センターの花壇に植栽を実施した。（参加者：１０名）
・７月４日（土）久留里の打ち水―めぐる水・水のめぐみ―
久留里商店街の方々と、水のめぐみや地球温暖化を考えるとともに、一服の涼を求めて、久留里街道に打ち水を実施した。（参加者：約６名）
・７月４日（土）第２回夕涼みコンサート
冬の「まちなみコンサート」でおなじみの「アンサンブル　ミルフィーユ」のみなさんによる演奏を鑑賞し、さわやかなひとときを過ごした。（参加者：約３５名）

資料 2-3

小櫃公民館・上総公民館の連携による事業実施について

小櫃公民館・上総公民館

1 ミニ展示「久留里城と戦国の房総―里見義堯・義弘の時代―」

（１）実施経緯　夢酔藤山氏から大量の写真データをご提供いただいたことが発端となり企画を実施。写真数は膨大であるが、写真に関する情報が不十分であったことから、ミニ展示については、小櫃及び上総地域を限定して、久留里城主として当地域をおさめ房総里見氏の最盛期を築いた里見義堯と義弘の親子二代を中心に展示内容を構成した。

（２）展示期間　７月１４日（火）～８月３１日（月）

（３）展示会場　小櫃公民館ロビー、上総地域交流センターふれあいホール

（４）ﾛﾋﾞｰﾄｰｸ　８月１０日（月）９：００～１０：３０　※正源寺御開帳日

ゲスト：夢酔藤山氏（歴史時代小説家、著書『里見太平記』ほか）

参加者：９名

（５）事業効果　小櫃公民館では小櫃振興会と連携し編集している「あるく小櫃マップ」の基礎資料として活用。

上総公民館では文化祭展示につなげていく予定。

2 KAZUOBI ハーモニーコンサート

（１）実施背景　小櫃公民館主催「おびつ里山コンサート」の事業予算（コミュニティ活性化事業）が削減されたことから、青少年健全育成協議会「小櫃の元気なこどもを育てる会」と連携して開催する運びとなり、役員会での協議の結果、上総小櫃中学校を会場とする本事業へ見直しを行った。

（２）趣　　旨　子どもをはじめ、上総及び小櫃の地域住民が文化芸術活動を身近な場所で楽しみ、気軽に参加できるコンサートを実施する。実施にあたっては、小櫃の元気なこどもを育てる会と共催し、子どもたちによる地域への発表の機会も設けることで、学校と地域をつなぐ音楽会とする。

（３）日　　時　１１月１０日（火）１４：１０～１５：００　※中学校６時間目

（４）概　　要　会場は上総小櫃中学校体育館

第１部は中学３年生による合唱披露。

第２部は前田ヒロミツ氏（テノール歌手／君津市出身）による独唱。対象は上総小櫃中学校生徒、上総及び小櫃地域住民等関心のある人。

（５）主　　催　小櫃の元気なこどもを育てる会、小櫃公民館、上総公民館

3 上総小櫃地区 20 歳のつどい及び実行委員会

（１）経　　緯　学校再編に伴い、令和７年度から「上総小櫃地区２０歳のつどい」として、４地区統合開催に向けた実行委員会及び集いを開催。
（２）実行委員会　６名（第１回会議：８月１８日）
（３）20歳のつどい　令和９年１月１０日（日）　上総地域交流センター
（４）幹 事 館　小櫃公民館（２年に１度輪番）

4　上総地域交流センター事業「まちなみ塾通信」の配布方法変更

年４回発行しているまちなみ塾通信を、従来は小櫃・上総地区に自治会回覧していたが、本年度からは小櫃公民館定期利用サークルの引き出しへの配布に変更した。

5　高齢者学級の交流事業（従前からの取り組み）

小櫃公民館ほほえみ学級と上総公民館さわやか学級の交流を行っている。
（１）日　　時　１２月１７日（木）
（２）内　　容　太巻き寿司づくり（講師：村田幸子さん／味楽囲さだもと店）
（３）幹 事 館　小櫃公民館（２年に１度輪番）

6 小櫃公民館「介護家族のひろば」（従前からの取り組み）

小櫃公民館主催「介護家族のひろば」では、東部地域包括支援センターと連携を図り実施していることや、いわゆる認知症家族会が、君津地区にしかないことから、小櫃公民館だけでなく、上総公民館エリアにもチラシ回覧を行ってきた。

今年度から、回覧基準の見直しにより、回覧は見送ったものの、東部地域包括支援センターを通じて、当該エリアのデイサービス、ケアマネージャーを通じて事業周知を行っている。

（１）日　　時　前期６月１８日（木）　後期１１月予定
（２）企画運営　公民館、介護当事者、東部地域包括支援センター、
　　生活支援コーディネーター（小櫃・上総）

7 夏休み自習室開放事業（従前からの取り組み）

上総公民館では、夏休み中に自習室開放事業を行っている。上総小学校・上総小櫃中学校・君津青葉高等学校にチラシを配付している。本年度の利用者は約半数が小櫃地区の１３～１８歳であった。

（１）期　　間　７月２１日（火）から８月２８日（金）まで（平日のみ）
（２）時　　間　午前９時から午後５時まで
（３）利用者数　８月２６日時点　延３９名（小櫃２０、久留里７、松丘７、亀山４、その他１）

資料 3-1

モデル事業　「地域づくり協議会伴走支援」の動向について

小櫃公民館

1 「人づくり」に資する取り組み

6 月11日（木）「小櫃てらす」設立総会

7 月 9 日（木） 第 1 回運営委員会　出席：藤平館長・島津（公民館）、高梨（市民 C）

8 月 4 日（火） 第 2 回運営委員会　出席：島津（公民館）、高梨（市民 C）、清水（地づ課）

8 月10日（月） 第 1 回全体会議　出席：島津（公民館）、高梨（市民 C）、清水（地づ課）

※ 毎回の会議の記録は小櫃てらす運営委員が作成し、職員内でも情報共有

※ 現状、プロジェクトリーダーによる発案形式のため、随時個別での相談対応にあたっている

小櫃てらすの活動の柱とプロジェクト　及び関連する公民館事業

- 全体事業：お芋プロジェクト（担当：會澤）
  →趣味教養講座「はじめてのさつまいも栽培講座」
- 教育のまち・子どもの育成：あそんべ食堂活動協力（担当：島津）
- イベント・地域の魅力・情報発信：（仮称）たまごフェスタを通した小櫃地区ふるさと祭りの協力（担当：藤平館長）
  →趣味教養講座「おびつのたまごをたのしむ教室」
- 農業・食文化の振興：はじめてのたまねぎづくり
  ※はじめてのさつまいも栽培講座の取り組みがきっかけ
- 公民館の活用と新たなコミュニティづくり：保留
- 地域のインフラ・サービス：地域医療の実態把握を目的とするアンケート

2 「関係づくり」に資する取り組み

① 趣味教養講座「はじめてのさつまいも栽培講座」
研修室にて
5月8日（金）19：00～20：30　21名参加
初心者向けのさつまいも栽培学習を通じて、小櫃てらすメンバーの学習的側面を支える。講座内で栽培実習は含めない代わりに、お芋プロジェクト苗植え付け体験（5月16日（土））への参加呼びかけを行い4名参加。
さらに、農業・食文化の振興のプロジェクト発案のモデルとなった。





② 趣味教養講座「小櫃のたまごをたのしむ教室」第2弾



■2種のたまごサンド　調理室にて
8月9日（日）10:00～12:30　18名参加
■しゅわふわシフォンケーキ　調理室にて
8月23日（日）　午前の部 10:00～12:00　9名参加
午後の部 13:30～15:30　7名参加
小櫃地区の特産品である「卵」を活用した料理講座を開催すると共に、生産者を招いて卵の生産に関する理解を深める機会とする。さらに、小櫃てらすが企画する「たまごフェス」への出店等を見据え、中核を担う人材の掘り起こしと、具体的な活動に向けた話し合いの場をつくっていく。

③ 個人活動とサークルの中間にある“ニットカフェ”



8月5日（水）15:00～16:15　和室8名参加（ニットカフェ4、参加3、見学1）
「公民館の活用と新たなコミュニティづくり」に寄与するため、「ニットカフェ」メンバーとともに、夏季子ども事業「こどもひろば」の 1 コマとして、子ども向けの編み物体験会を実施。
サークル活動と子どもたちを繋ぎ体験の場を増やす活動のモデルとして実施。
同様の取り組みとして、みのり卓球（7月29日（水））、野の花を生ける会（8月4日（火））、虹の会（8月18日（火））、おびつピラティスサークル（8月19日（水））を実施。

④　「おびつ あそんべ食堂」の活動支援



毎月第4火曜日：4月28日、5月26日、7月28日、
8月25日、9月29日、10月20日、11月24日、12月22日、
令和9年1月26日、2月16日、3月 23 日
「おびつあそんべ食堂」の活動そのものと、小櫃てらすの活動協力の双方について支援を行っている。
●7 月　親子 de キャンプ体験会（青少年相談員と共にテントの設営撤収方法を指導）
●8 月　ふるさと祭りに向けて盆踊り練習
●11・2 月　「コノ（人の）ハナ（しを聞きたい）プロジェクト」（お仕事の話をきく企画）

資料 3-2

上総公民館モデル事業「上総の”山”と”歩く”を楽しむ教室」実施以降の取り組みについて

１　モデル事業について

２月１４日（土）に実施し、２５名が参加した。（令和７年度第４回審議会にて報告）

２　成果と課題について

・５月２３日（土）２団体の代表者と、モデル事業の振り返り及び意見交換

【成果】・参加者の満足度が高く、自由記述でも好意的な意見がほとんどであった

・両団体と公民館の協働で、地域の魅力を地域内外の方々と広く共有し発信できた

【課題】・浅間山遊歩道が工事中で立ち入れなかったことから再度の実施を望む声があった

・両団体の活動の活性化（会員の増加等）にはさらなる取り組みが必要である

３　今後の取り組みについて

両団体の課題として、「会員の増加を図ること」及び「活動の担い手を増やすこと」による「地域活性化の取り組みの充実」があることが分かった。そこで、懇談の結果、以下のような取り組みを行うことについての意見が出た。引き続き、両団体と協議を重ねて、本年度中の事業化を目指す。

（１）くるりボランティアガイドの会との連携

①第５４回上総地区文化祭の特別展示のテーマを「上総の”山”と”歩く”を楽しむ教室の歩みと里見氏の足跡」として、過去の「山と歩く」で巡った上総地区内の地点と、里見氏との関連について展示する。このことにより、上総地区内外の方に「山と歩く」の存在を周知する。

②①の展示を見た方の反応なども参考にして、上総地区内（特に久留里地区）の特定の地区に焦点を当てて、住んでいる方や詳しい方、関心のある方を集めたおしゃべり会を行い、思い出や見所などを話し合って、地区の魅力を洗い出す。

③くるりボランティアガイドの会で、その地区を対象に新たなルート探索をミニ講座として行い、関心を高めるとともに、ボランティアガイドのルートを作成する。

④新たなルートをガイドのメニューに追加して活用するとともに、①②を通じて新規会員の募集を図る。

（２）蓑会との連携

①浅間山遊歩道は依然として立ち入り禁止であるが、工事の状況について定期的に教育総務課に確認するとともに、蓑会の代表者とも連絡および情報交換を続けている。

②蓑会のもう一つの主要な活動である向郷地先の道路環境整備の活動に合わせて、終了後に茶話会や食事会などのイベントを行い、活動の周知と交流の拡大を目指す。

資料 3-3

小櫃公民館モデル事業「地域づくり協議会伴走支援」意見票まとめ

1．見通し・計画

（1）審議テーマに対して、事業の目的や課題設定は適切か

【評価】4：6名　3：2名　2：0名　1：0名　　平均：3.8

4

・人づくりと関係づくりの二つの観点から、小櫃住民主体の地域づくり活動を進めることは、とても大事なことなので適切であると思う。（大人から子どもまで）

・地域のことをそこで暮らす住民等で情報交換しながら人づくりや関係づくりに取り組んでいく「地域づくり協議会」の活動を進めるにあたり、集う場所の提供、運営会議や関連事業・イベントの連絡調整、会議等で交わされた意見や提案の整理など、公民館の機能と職員のノウハウを活かして「伴走支援」することは、そのまま「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」になると思われる。

・小櫃公民館、小櫃地域市民センター及び地域づくり課が伴走支援を行って来たことは、非常に良いことだし、理想です。どのように地区住民を公民館に来てもらうかの工夫が見られるように思います。又、夏休みに児童生徒の来やすいようにしていることが評価されます。

・住民主体の地域づくり活動を進めるためには、現在活動している事業を、方向性を一つにまとめることは、将来の小櫃地域に良いことと思う。

・「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」というテーマにおいて、地域づくり協議会の伴走という視点は適切だと考える。人づくり・関係づくりという２つの視点も公民館の強みが生かせる。さらに、公民館で行っている各活動への公民館の支援が具体的活動としてあるのもテーマに合った活動でよい。

・小櫃てらすを軸に小櫃地域の特性を生かした食とコミュニティをテーマにしている事業は、今後の広がりを期待できる設定となっています。

3

・事業の目的・課題設定は適切だと思います。

・協議会設立準備、6/11 発足に向けての「伴走支援」について、公民館職員の功績(働き)は評価できると思う。準備期間が長期間であることで当初メンバーの離脱、多くの地域住民の関心を得る難しさ、ゴールや成果がすぐ実感出来ないことなど課題は多く、苦労されたと思う。地域づくり課、市民センターとの関係もあるので公民館としての課題設定が適切かはわからない。

（2）対象者の設定や周知方法は適切か

【評価】4：4名　3：4名　2：0名　1：0名　平均：3.5

4

・幅広い対象者の設定、子どもたちには小学校に来てくださり、説明していただいて、子どもたちにもよくわかったと思う。

・子どもたちから大人までが主体となり、各ワークショップを開きながら、行っていることは、評価できますし、公民館事業に関心を持たせている。

・各団体が話し合いの場を何回も重ね、決めたことを実施することは良いと思います。

・対象者の設定は様々な年代を対象としている点が評価できます。周知方法は、地区外の参加者も多いことに出来得る方法をくまなく使っていると感じました。

3

・「あそんべ食堂」は、たくさんの親子連れが参加されていることは、何回か拝見しました。学校の協力もあり、周知をしっかり行っているのではと思います。他の事業の参加人数は分かりませんが。

・地域づくり協議会の会員は地域の既存団体の活動経験者、これまで地域活動の表に出ていかなかった若者や他地域からの移住者など幅広いメンバーとなっている。今後、協議会のホームページや地域の広報紙、関連事業やイベント等での情報の広がりを通じて、地域のことに関心を持ち関わるという意識が浸透していけば次のステップにつながるのではないか。
・地域づくり協議会設立準備会という対象は「地域住民が主体の『地域づくり』」というテーマに即している。周知方法については、よくわからなかった。もしほかにもこのテーマに合った活動をしている団体があるとすれば、その中からどのように支援する活動が選ばれているのか、「周知」が何を指しているのかよくわからないので評価が難しいというのが正直なところです。
・周知方法は紙チラシ、回覧、デジタルと様々活用できていると思う。芋プロジェクトについては他地区からの参加者もいるので成果はあったと思う。周知の反応は情報を受ける側の資質にもよる。

2．実施内容

（1） 目的達成に資する内容になっているか（内容の充実度）

【評価】 4：6名 3：1名 2：1名 1：0名 平均：3.6

4

・小櫃の農業（特産物など）食文化、地域の方々が興味・関心を持ち参加して、良さを体得できて、よいと思う。（小櫃のたまごを楽しむ教室、サツマイモ栽培など）
・会員の募集から協議会の設立、運営会議や関連事業・イベント等でコアとなる協議会の会員と協力しながら連絡調整や準備等を進めており、「伴走支援機能」は十分に役割を果たしていると思われる。
・小櫃公民館等を中心に輪の広がりを見せていると思います。地域の産業とタッグを組み進めることで目標達成は、出来るものと考えられます。
・話し合いを通して、参加者同士の性格や考え方がはっきりすると、コミュニケーションも活発になり、目的達成に資すると思います。
・「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」というテーマにおいて、地域づくり協議会の伴走という視点は適切だと考える。人づくり・関係づくりという２つの視点も公民館の強みが生かせる。さらに、公民館で行っている各活動への公民館の支援が具体的活動としてあるのもテーマに合った活動でよい。
・事業の進行にしても今までにない２部構成や生産者、販売店に関わってもらうような形態となっており、小櫃てらすの目的に合わせた内容で、良く考えられています。充実度は高いです。

3

・内容は、とても良く考えられていて充実していると思います。

2

・スタートできたので、これから活動を重ねていくことで充実度も増してくる。（全体的に評価の２点と３点の選択基準がよくわからないので悩む）

（2） 講師の選定や協力者・関係者の広がりは適切か

【評価】4：5名 3：2名 2：1名 1：0名 平均：3.5

4

・講師との打ち合わせ、話し合い、協力者・関係者の方々のチームワークができているので、口コミ等での広がりができていると思う。（みなさんのおかげです。感謝したいです）
・地域にある素材や人材を関連付け、「やる気」というエネルギーを持った人たちも取り込んで取り組みを進めているのが見える。
・お芋プロジェクト、あそんべ食堂活動協力及び（仮称）たまごフェスタを通した小櫃地区ふ

るさと祭りの協力等素晴らしい広がりが見えてきます。
・事業の講師や指導者の選定は、団体運営のメンバーのつながりからと思いますので良いと思います。
・身近な講師は受講者に安心感を与えます。協力者・関係者も多彩な広がりを見せています。特におびつあそんべ食堂は突出しています。

3

・館長さん自ら講師をされている回もありましたが、さらに地域の人（達人）を探し出し、広がりが持てるとよいと思います。
・各事業に関する講師は適切だと思います。協力者・関係者を増やしていこうという活動もなされていると思いました。「伴走支援」に関する講師や協力者・関係者なのか、地域づくり協議会への協力者・関係者なのか質問の指していることがよくわからなかったので、答えが違っていたらごめんなさい。

2

・講師の選定は判断しかねる。

3．振り返り

（1）事業目的は達成されているか（参加者の反応などを踏まえて）

【評価】4：5名　3：3名　2：0名　1：0名　平均：3.6

4

・イベントや「あそんべ食堂」の活動では、食事をしながらおしゃべりや遊びなどの居場所づくりになっているので、楽しく参加できていると思う。
・地域づくり協議会「小櫃てらす」が6月に設立され、まだスタートした段階だが職員全員で情報共有しながら対応している姿が見える。ただし、地域づくり協議会という会の活動目的や事業内容から見ると公民館としての役割や職員の業務量など、どこまでの範囲で「伴走支援」していけばよいのか、市の地域づくり担当部署と状況を確認しながら職員の配置などを検討していかないと負担が大きくなるのではないか。
・事業目的の途中かなと思いますが、よいと思います。
・果たされている。
・「おびつあそんべ食堂に毎月親子で参加しています。」と言う声を良く聞きますし、他の事業についても目の行き届いた指導で、かなりの満足度をもって事業目的を達成していると考えます。

3

・内容からして、参加された方はとても満足されたことと思います。
・すべての内容がすべて達成されていると思います。この内容で、どこまでが達成であるかについては、今後の期待でもあります。
・6/11 無事に協議会正式発足、その他お芋プロジェクト、たまごフェス、あそんべ食堂、サークルではない新形態のニットカフェ等関連事業も増えているので、今後に期待。お芋プロジェクトは参加したが、斬新な企画で、普段公民館活動に参加されない方も多くいたように思う。

（2）学習・活動の深まりや新たな活動への展開が期待できるか

【評価】4：5名　3：3名　2：0名　1：0名　平均：3.6

4

・実際に、子どもたちが土に触れたり、地域の産業と触れ合うことや、子どもたちに公民館に来てもらうことで、公民館事業に関心を持たせている。
・期待できると思います。

・地域づくり協議会は様々な活動に広げていく可能性があると思う。公民館が団体の伴走支援を行うということは、今後も様々な団体でもできると思う。ただ、公民館の負担は多くならないのかなど課題はあるかなと感じます。
・事業の構成が良いので、同様に他の学習・活動にも応用出来ると思いました。

3

・新たな活動への展開は期待できます。
・地域にある素材や人材を関連付け、地域のために「やる気」というエネルギーを持った人たちも取り込んで取り組みを進めているところからは期待が持てる。
・協議会メンバーには、小さな手応えを感じて活動のモチベーションを維持できるようにサポートが必須だと思う。今後会の継続と発展を祈ります。

4．総評

・「地域づくり」として、様々な取り組みを考え、工夫していると思います。中でも「おびつあそんべ食堂」には、毎回大勢の親子連れが参加しているようです。地域の方が主体となり、準備・運営を行い、中学生のボランティアの参加もあり、子どもたちが嬉しそうに食事を楽しんでいることや、親同士の交流の場にもなり、とても良い事業だと思います。
・地域の方々の関心のある特産物の活用法など、興味のあることをさらにアップしていただけたらと思う。体験することの素晴らしさの結果だと思います。（いつもたくさんの参加者がいてすばらしい計画・内容だと思います。）
・審議テーマを「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」とした際に、「地域づくり」とは何かを考えるとともに、住民主体で地域課題の解決を目指す取り組みをどのように展開していくか、これらの取り組みを通じて「地域づくり」をどのように推進していくかを議論するとしていることから、９月の第２回審議会で取り組みの意見交換をする際に、この意見票や事業の実績等を踏まえて見えてきた「地域づくり」や「住民による地域課題の解決を目指す取り組み」「地域づくりの進め方」の公民館としてのイメージを整理し、意見交換の材料として委員側に示してもらえると有意義な話し合いができると思う。
・全体的に評価できますし、各公民館でも地域市民を公民館に足を運んでもらうことが一番の悩みだと思いました。
・良い活動を行っていると思います。
・「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」というテーマであるが、地域づくり協議会はまさにそのものだと思う。公民館がよき伴走者としての役割を果たしているのも心強いのではないかと思う。
・小櫃てらすを基軸とした事業展開に期待が高まると同時に、職員の方の労力に頭が下がります。
事業全体についてですが、地域の特性を生かした事業や、縛りのないコミュニティ、食を通した新たな繋がりと、どれも長く続いて欲しい内容ばかりでした。その中でも、おびつあそんべ食堂は地域づくりの中で、好循環が生み出されています。スタッフは若いお母さん方と上の世代の方が協力して準備を行い、中学生のボランティアが小学生以下の子どもたちの面倒を見て、親子で参加されている人たちは、新たなコミュニティに繋がっており、更に、余剰分の協賛品は、支援を必要としている人たちに配られ、大変喜ばれています。今後も息の長い事業として育って行って欲しいと願っています。審議テーマも地域密着の公民館ならではのテーマであり、これからも、今求められている地域のニーズをすくい上げて、コミュニティのハブとしての活動を推進してください。

資料 3-4

上総公民館モデル事業「上総の”山”と”歩く”を楽しむ教室」意見票まとめ

1．見通し・計画

（1）審議テーマに対して、事業の目的や課題設定は適切か

【評価】4：5名　3：2名　2：1名　1：0名　　平均：3.5

4

・久留里の歴史や自然を体感できるテーマや目的であったと思う。
・歴史のある上総の山を歩く事をテーマにしたことの着目点は良いと思います。久留里の歴史は古いので、課題をもって進めることが大切です。
・地域の活動団体と協働して、地域の魅力を発信することは、素晴らしい着眼点と思います。
・「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動について」に対し、地域の良さを生かした地域活性化を目指している団体はまさにテーマに沿ったものだと思う。
・久留里の知名度を生かし、地域の歴史、文化を学びながら、健康増進も兼ね備えた歴史のある街ならではの事業と感じました。課題設定は適切です。

3

・地域団体の「くるりボランティアガイドの会」と「蓑会」と協働しての企画は、事業の目的に合っていて適切だと思います。
・高齢者の健康思考に対応している、地域内の良いコースを選定している、◎２団体の協働事業としている事が評価できる。サークルや団体はお互いの存在を認識していても協働(コラボ)は公民館が間に入り調整をしないと実現しにくい。

2

・「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」という審議テーマの前提にある、上総地区で住民の皆さんが地域づくりをどのように考え進めているのか、全体的な動きがあるのかどうかなどイメージが見えていない。地域が広範でそこで暮らす環境も異なることから、上総地区としての事業の設定が難しい面がある中で何か共通するものとして「上総の”山”と”歩く”を楽しむ教室」となったと思う。例えば地域の特徴を生かして山に歴史、観光、飲食、レジャー、久留里線代替え交通機関等も併せて、「歩いて巡る上総」をテーマにした地域づくりを地域住民の協力で進められればよいと思う。公民館がそのきっかけとしてこの事業を企画し進めていくのであれば審議テーマに合致してくると思う。

（2）対象者の設定や周知方法は適切か

【評価】4：3名　3：5名　2：0名　1：0名　平均：3.4

4

・今回は、上総地区以外の参加者が半数いたことは、公民館活動のホームページを参考に参加する方が多く、周知方法は、適正だったのではないかと思います。
・地域活動団体が持っている基礎資料を利用して、会員の組織を中心に事業の対象者を設定して、参加者に周知を図り、また地域住民等に知らせる回覧板や声掛けは必要と考えます。
・対象者の設定は、大人向けのイメージですが、地区内外の参加者があったとのことなので、周知方法は適切です。

3

・地域外からの参加者も多かったようですが、地域の人の参加も増えるよう、周知をさらに工夫するとよかった。
・興味関心のある方が参加しやすくなる方法がちらし以外にもう少し考えたらどうか。（ちらし以外にあったらごめんなさい。）
・現状からするとこれくらいかなと思う。これから地域の人たちには地域のことをよく知って

もらい、また、紹介できる活動も積極的に展開して、上総地区の人たちと他の地域から来た人たちが地域を歩いて巡りながら交わす話題をいろいろと備えていけば様々な交流が進められると思う。
・上総地区内の参加者にターゲットを絞ったところが「地域づくり」になっている。どのように周知を行ったのか、資料からはわからないのですが、話し合いの中で市外からも参加者がいたとおっしゃっていたので周知は広く行われていたのかと思います。
・参加者が 25 人とのことなのでまあまあできているといえる。一般市民に開催情報が届いているという手応えはあるか？

2．実施内容

（1） 目的達成に資する内容になっているか（内容の充実度）

【評価】 4：2名 3：6名 2：0名 1：0名 平均：3.3

4

・目的が「地域の良さを体感し」「かつての暮らしの様子の理解」「参加者同士の交流」であるならよいかと思います。地域の参加者にターゲットを絞っていることで「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」となっている。
・くるりボランティアガイドの会、蓑会との連携によって、より満足度の高い内容だった事がうかがえますので、目的達成に資すると言えます。

3

・内容的には良かったと思います。ただ浅間山遊歩道が工事中で立ち入れなかったようで、事前にわかっていたのであれば、他コースを考えてもよかったのではと思います。
・無理のない内容だと思います。天気も良かったので楽しく実施できたと思います。時期はどうだったかなと思います。インフル・風邪の流行る時期ではないかな？もう少し暖かい時期だったら参加者も多くなるのでは？
・久留里下町の街並みと井戸、小櫃川の川廻し、町郊外の道路、自治会館、愛宕の自然林と山上の神社、変化が進む愛宕地区などに触れて、参加者は説明を聞くだけではなく自らが何かを感じたり発見したりできたのではないかと思う。参加者がそのことを互いに語り合ったりしている場面が多くあった。
・浅間山へ入山出来なかったのは残念でしたが、久留里の水の元井戸を確認できたこと、また久留里の寺院を歩きながら確認が出来ました。ボランティアの説明があって、より分かりやすかったと思いました。
・事前準備として、コースの設定、草刈り、危険な場所の確認や地域の歴史を調査することは、大変良いと思います。
・「団体との連携をはかり、お茶会、食事会等交流の更なる拡大」も視野に入れているようなので実施達成度は高いと思う。

（2） 講師の選定や協力者・関係者の広がりは適切か

【評価】4：2名 3：6名 2：0名 1：0名 平均：3.3

4

・くるりボランティアガイドの会及び蓑会との連携が図られたこと及び両団体の活動についての理解が出来ました。
・日頃から地域づくりを担っているボランティア団体が協力できるのは、上総地域の強みであり、今後の広がりも期待できます。

3

・地域で活動している２つの団体にお願いしたことは、よかったと思います。

・くるりボランティアガイドの会や蓑会の代表者と公民館の協働の成果が十分できたと思う（話し合いが十分できたことや、他への声掛け等が十分できたので多くの方々の参加ができたと思う。）
・「くるりボランティアガイドの会」や「蓑会」の皆さんと連携して事業を行い、一般の参加者とも和気あいあい歩いている様子が見えた。
・地元を愛する地域団体を通して実施しているので、初めの一歩は小さくても、だんだん周知され、事業が発展し継続できれば良いと思います。
・この内容について「くるりボランティアガイドの会」「簔会」をつなぎ、今後新たな人材確保へとつながれば広がりが適切と言えるのではないか。
・二つの団体以外に一般の参加者は何人いたか？

3．振り返り

（1）事業目的は達成されているか（参加者の反応などを踏まえて）

【評価】4：5名　3：3名　2：名　1：名　平均：3.6

4

・参加者の満足度が高かったことや好意的な意見が多かったことは、成果が十分発揮できたと思う。参加者も地域の方、また地域外からも多く参加されたことは、内容も有意義なものと（計画）もよかったのではないか。
・参加者の満足度調査アンケートでも満足度が多いことから事業目的は、達成されているものと思います。
・事業参加者の報告を見ると、好意的な意見をいただいていることを考えると、十分達成されていると思います。
・されている。
・参加者の反応として、かなり多くの好意的な意見があり、満足できる事業であったと考えます。事業目的は達成されています。

3

・参加者の満足度が高かったのは良かったと思います。
・「くるりボランティアガイドの会」や「蓑会」の皆さんと連携して事業を行い、終了後に振り返りと今後に向けた意見交換を行った結果を今後につなげていくことが期待される。
・アンケート結果が概ね良かったとの事なので参加者の満足度は高かったと思う

（2）学習・活動の深まりや新たな活動への展開が期待できるか

【評価】4：3名　3：5名　2：0名　1：0名　平均：3.4

4

・この事業の実績を考えれば、新たな活動は、当然期待できると思います。
・今後の取り組みに期待が持てると感じます。
・ボランティア団体と協力することにより、新たな地域資源の掘り起こしも可能になると思われますので、今後の活動への展開も期待できます。

3

・２つの団体の課題もあるようですので、連携を取りながら、協議を重ねることで、さらに良い活動となることを期待します。
・ちらしをどこに配布、どこに掲示するか……を考えて、参加者が増えるかな……と思います。ちらしだけでなく、どこかで PR できれば、さらに参加者も増えるのではないでしょうか。

・１の見通し・計画と同様
・久留里城から久留里神社を巻き込んだ考え方が増えると良いと思います。大手門から大門までの道のり等まだまだ歩くを楽しむ事があると思いますので進めていけることを期待します。
・開催回数や参加しやすさ(コースの距離や難易度を下げるなど)の検討をして継続できると良いと思う。次回はぜひ参加したいと思う

４．総評

・”テーマである「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動について」ということで行った事業で、地域団体の「くるりボランティアガイドの会」と「蓑会」と協働して、企画・運営をされたことは、とても良かったと思います。上総には、まだまだ魅力あふれる歴史や文化がたくさんあると思いますので、地域住民の中で詳しい方の話を聞いて、今後の活動に生かし、内外の多くの人に知っていただき、この事業に参加することで地域の方々が自分の住んでいる地域のよさを発見し、誇りを持てるように、また地域外の人も上総の素晴らしさを知る機会となり、何度も訪れていただけることを願います。今後、未来を担う子どもたちにも参加ができ、地域の歴史と文化を学べるとよいと思います。
・山を自分の足で歩き、目で確認して、地域のよさを体感することは大事（楽しめる）であるが、例えば、途中で絶景（おすすめの景色)、お酒の蔵を見せてもらう等の見学等を入れてはどうかなとも思う（体験も含めて)。
・審議テーマを「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」とした際に、「地域づくり」とは何かを考えるとともに、住民主体で地域課題の解決を目指す取り組みをどのように展開していくか、これらの取り組みを通じて「地域づくり」をどのように推進していくかを議論する。としていることから、９月の第２回審議会で取り組みの意見交換をする際に、この意見票や事業の実績等を踏まえて見えてきた「地域づくり」や「住民による地域課題の解決を目指す取り組み」「地域づくりの進め方」の公民館としてのイメージを整理し、意見交換の材料として委員側に示してもらえると有意義な話し合いができると思う。
・上総の山は、城山からすそ野が広がり、素晴らしい風土がたくさんありますので、自分の足で歩き、歴史を振り返ることができると思いますので、今後も続けていったらよいと思います。ただ最近の豪雨及び台風の影響により、山道の崩壊等があり自由に歩くことができないのが残念です。
・地域を元気にできる事業の一つと思います。
・「公民館活動」が「地域づくり」の核になるのは、様々な社会課題を考えても、必要になってくると思うので、多くの事業がこの視点を持って活動できたらよいのではないかと思う
・上総地域の特性である歴史、文化に加えて町並みの商業文化にも焦点を当てて、今後の地域づくりに活用されてはどうかと考えました。今回の事業を始めとして、これからもう少し幅広い年代にもコミュニティの場を設けられたら良いですね。城下町として栄えた当時の久留里の町並みに興味があります。過去に同様の企画があったとしたら、ご容赦頂きたいのですが、企画展と新酒まつりや城まつり等とコラボするのも良いかも知れません。”
・新規会員の加入(会員増加)については、何度か繰り返し開催することで仲良くなってからの展開に期待したい(多くのサークル、団体共通の課題)